

越美山系砂防事務所から眺める山々が徐々に色づいております。また、川を遡るにつれ、標高の高い山々が見えてくると、冬の支度をしている様子が窺えます。当事務所では、津波防災の日にあたり、巨大地震を想定した訓練を実施しました。

## 津波防災の日地震訓練

津波防災の日に制定されている11月5日、当事務所では巨大地震を想定した訓練を実施しました。震度6弱を想定し、緊急地震速報を受信後、地震発生後の被災状況把握・安否確認等、情報伝達の演習を行いました。

その後、災害発生時の対応について、各々1~3時間以内の行動及び3時間以降の行動について再検討を行い、行動の可否とその解決策について、意見交換を行いました。また、非常食の賞味期限に伴う更新に向け、調理訓練と試食を行いました。



避難訓練と被災状況報告

災害応急対策について再検討

11月5日が津波防災の日とされているのは「稲むらの火」という話に由来します。1854年（安政元年）11月4日・5日の2回にわたって襲った南海の大地震に際し、偶然にも故郷の紀州・広村（現在の和歌山県広川町）に戻っていた浜口梧陵は、海水の干き方、井戸水の急退などにより、大津波が来ることを予期しました。梧陵は村民を避難させるため、自分の田圃に積んであった収穫された稲束（稲むら）に火を投じて急を知らせ、村民の命を救ったと言われています。

《参照:ヤマサ醤油(株)WEBサイト(梧陵氏は7代目)》

## 交通事故防止のため講習会を開催

11月に入り、日の入が益々早くなるにつれ、帰宅ラッシュの時間にも、夜空に星が浮かぶ季節になりました。

職員の通勤及び勤務中の移動について、安全運転に対する意識をこれまで以上に高めるため、11月12日に全職員に対し、交通安全講習会を開催しました。

講師には、揖斐警察署の榮交通課長に來所いただき、追突よりも出会い頭事故の割合が多い揖斐郡の交通情勢や、交通事故の具体例とその被害状況の紹介など、講義をいただきました。

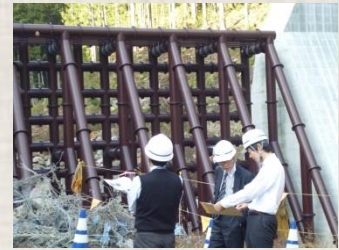


講習会の様子

## 大野副局長が来所

7月31日に就任された大野副局長が、11月11日に木曾川上流河川事務所及び当事務所を訪問されました。

当事務所では、所内にて職員に対する激励及び揖斐川筋における現場の状況を視察されました。現場では、西濃豪雨により被災した下谷（しもたに）の第1砂防堰堤や、昨年度に竣工した大蔵谷（おぞうたに）第1砂防堰堤等を視察されました。



大蔵谷第1砂防堰堤の視察

## 梨子沢土石流の復旧活動を学ぶ

中部地方整備局の第52回砂防担当者会議が、11月10日と11日にわたって岐阜県中津川市及び長野県南木曾町で行われ、当事務所から5名の職員が参加しました。

10日は中津川市内にて、昨年度に南木曾町梨子沢で発生した土石流及び御嶽山の噴火に対して、TEC-FORCEの活動、地元自治体の対応及び地元建設業者の活動について、意見交換等を行いました。また、参加者を数班に分け、異なるテーマで討議を行いました。

11日は南木曾町にて、梨子沢の既存堰堤の復旧状況や、新規に建設中の堰堤の視察を行いました。



土石流発生箇所にて、当時の写真と比較して復旧状況を把握

## 砂防堰堤の機能が向上 = 坂内川流木 =

坂内川流木対策工事は、揖斐川町坂内坂本（さかうちさかもと）地先の品又谷（しなまたたに）第1砂防堰堤において、昭和48年に完成し、40年以上経過した砂防施設を改良する工事です。

今回の工事は、既設堰堤を補強・嵩上げし、鋼製スリットを設置します。砂防堰堤に新たな機能を追加することで、出水時に溪床に堆積した流木などが流下し、河道閉塞や河川氾濫などの被害を防止します。

施工は(株)山辰組が行います。



新たに流木止施設を設置する品又谷第1砂防堰堤

## 昭和40年(1965)災害／『奥越豪雨』⑮

### 根尾白谷の大崩壊 ②

崩壊面積 85,000m<sup>2</sup> 崩壊土量 1,070,000m<sup>3</sup>

場 所：岐阜県本巣郡根尾村《現本巣市》，根尾西谷川右支川八谷の小左支、白谷の源頭部

発生日：昭和40年（1965）9月15日

誘 因：台風24号の接近で活発化した秋雨前線による豪雨

崩壊土砂のうち、かなりの部分は、崩壊地脚部にブロック状に残っているが、一部は白谷を流下し、白谷中流部を広く埋積し、八谷本川へも流入している。深いV字谷であった白谷は、崩壊土砂によって埋積されて、幅の広い谷に変わった。白谷下流端の白谷橋は、災害前には、河床から10m以上の高さがあったが、白谷の埋積により、現在では河床から約4mとなっている。

また、八谷本川も白谷からの土砂でせき止められ、その背後に、八谷上流から流下した土砂が堆積した痕跡が認められる。白谷から八谷本川へ流入した土砂は、小倉集落付近の拡幅部で氾濫・堆積し、先端は、その直下流の狭窄部にまで達している。八谷下流の住民からの聞き込みによると、崩壊土砂起源の泡状の土砂（土砂流と考えられる）が、八谷下流まで流下したということである。これにより、八谷下流では、河床が上昇した。

崩壊による、直接の被害は生じなかった。この崩壊地に最も近い人家は小倉集落であるが、辛うじて埋没を免れた。

白谷では災害後、昭和40年代から50年代にかけて、復旧治山事業により多くの谷止工・堰堤工が設置された。特に、崩壊地脚部のブロック状の崩壊土砂の末端付近には谷止工が密に設置されている。これらの施設の効果により、現在の白谷では顕著な土砂移動は生じていない。

また、八谷本川でも、白谷合流点～小倉集落間に、岐阜県によって、昭和40年度応急砂防復旧工事として、堰堤工が設置された。また、小倉集落下流の狭窄部に、昭和53年（1978）に当事務所によって、八谷砂防ダムが設置された。これらの施設の効果により、八谷に押し出した崩壊土砂の再移動も抑制されている。

### 根尾白谷大崩壊の発生原因

越美山系独自の脆弱な地質に、集中豪雨による雨が浸透し、大崩壊を誘発した。雨水は泥質混在岩を剪断し、石灰岩は地下水の上昇などを招いた。その結果、湧水量が急増し、崩壊が起きた。



土砂が堆積した白谷の河原

<つづく>

## いびがわマラソン ～町のおもてなしに感謝～

いびがわマラソンが11月8日に開催されました。今年で28回目という歴史ある大会です。当事務所からも伊藤事務所長（フル初挑戦）を始め、フル2名・ハーフ3名・ポランティア2名が参加しました。雨で足元が悪い状況の中、いびがわマラソン特有の厳しいアップダウンを乗り越え、出走者は全員が完走を果たしました。

雨の中で応援をしていただいた沿道の沢山の方々、サポートをいただいたポランティアの方々、運営の関係者の方々、皆さんのおもてなしに感謝です。



伊藤所長 29km付近で給水

出典：越美山系災害史（原文）

《 》はクマタカ通信転載にあたっての補足箇所  
発行：越美山系砂防工事事務所 平成10年10月

※法人については文中敬称略



クマタカ通信をメール配信します。配信希望の方は下記宛に「配信希望」とメールを送信して下さい。  
また、クマタカ通信の感想やご意見もお待ちしています。

発 行 国土交通省中部地方整備局

越美山系砂防事務所 揖斐川砂防出張所

〒501-0619 岐阜県揖斐郡揖斐川町三輪2303-3

Tel: 0585-22-3526 Fax: 0585-22-6626

E-mail: [ibigawasabo@cbr.mlit.go.jp](mailto:ibigawasabo@cbr.mlit.go.jp)